

(様式第4号)

第3回 上田市子ども・子育て会議 会議概要

| | |
|-------------|---|
| 1 審議会名 | 上田市 子ども・子育て会議 |
| 2 日時 | 令和1年7月23日 午後1時30分から |
| 3 会場 | ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール |
| 4 出席者 | 金山会長、若林副会長、浅川委員、安藤委員、飯島委員、下村委員、高井委員、瀧本委員、土屋委員、中澤委員、橋詰委員、畑委員、丸山委員、宮下委員、山寄委員 (欠席委員) 金委員、佐藤委員、滝澤委員、寺尾委員、保月委員 |
| 5 市側出席者 | 小林健康こども未来部長、山賀子育て・子育て支援課長、宮澤保育課長、遠藤母子・精神保健担当係長、川口母子・精神保健担当係長、間宮保育担当係長、下林保育担当係長、堀内放課後こども育成係長、宮下障がい者支援担当係長、塚田私立産婦人科病院総師長、小山子育て・子育て支援担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、渡辺子ども家庭福祉担当係長、小宮山発達相談センター次長、半田主査 |
| 6 公開・非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 0人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和元年8月20日 |

協議事項等

- 1 開 会 (山賀子育て・子育て支援課長)
- 2 あいさつ (小林健康こども未来部長)
- 3 会議事項

(1) 平成30年度上田市子ども・子育て支援事業計画実施状況及び点検・評価について

- ・事務局から資料の確認、資料に基づく説明(事前資料1)
- ・質疑・御意見

(委員)

子ども病院で障がいを持って生まれた子は、初めに障がい者支援課に行かなければいけないのか。

(事務局)

上小圏域(上田、東御、長和、青木)では保健師が医療的ケアのある障害のある児童の最初の窓口と決められている。

地域の保健師が窓口になり、病院と連携する中で必要に応じて障がい者支援課との連携していく流れになっている。

(委員)

15(乳幼児健診)・16(乳幼児教室)・追加(親子教室)について、対象になった人数を教えてください。

(事務局)

乳幼児健診・乳幼児教室は特別に対象を設けていない。

親子教室は、乳幼児検診を受けた方で、普段の親子の関わりと子どもの発達を促していただいたり必要に応じて勧めている。

(委員)

- ・親子教室については、参加者が増えるを書いてあるので、何人希望していて見込みとしてどれくらいの規模になりそうなのかということを検討すべきではないかなと思う。
- ・68の特別支援学校の就労移行支援事業について、今現在何事業所位が支援を表明しているか参考までに教えていただきたい。

(事務局)

今上田市内では2事業所が就労支援移行事業所。

(委員)

数字を聞いて愕然とする。必要性を訴える場と受け入れ場所を増やす努力が必要と思う。

(委員)

(実施できる事業所が)減少傾向にあるとあるが、障害をもっている子どもたちが社会に出て行くことがすごく大事で、いろいろなところで後押しされているにもかかわらず、なぜ減少していったのかという理由もわかることがあれば教えていただきたい。

(事務局)

就労支援というサービスが出来たときは上田市内でも5～6事業所が就労移行支援事業所ということで立ち上げた。利用があると国から事業所に自立支援給付費が入ってくる仕組みだが、その単価の仕組みが30年の4月に改正になり、経営的に難しいところが出てきている。一方で、就労継続B型という事業所の数が伸びてきており、利用者がそちらを希望するケースが多くなってきているということが考えられる。

(委員)

74 感覚を育てる運動教室で、ここを利用できるお子さんは、例えばたんぽぽを併用しながらなのか、どんな評価をしながらここへ繋がっていくか教えてほしい。

(事務局)

発達相談センターで相談を受けた中で希望する親子と、保育園・小学校低学年で気になるお子さんへ声がけしている。

(委員)

たくさんの事業と課題があるので民間の利用はとても大切なことだと思う。支援が必要な方々に対しては民間では難しくなるので行政で行い、そのほかの絶対的な支援という面を民間にという方向を考えると、民間のボランティアがきつくなっていると感じる。チャイルドラインの受け手、ファミリーサポートの提供会員など、ボランティアの方への支援も考えてこれからの良い事業計画を考えていただきたい。

(事務局)

行政だけで担えるものではなく、きめ細やかということを見ると、民間あるいは同じ目線で活動していただく方達の力を借りるということは大切なことなので、委員からご意見のとおりそれに見合う行政予算の確保が必要になる。そこに少しでも報いるために事業ごとに予算をたてて検討していきたい。

(委員)

地域みんなで子育てを支えるっていうしくみの大事なことを動かすのは行政なので、行政の理解があると周りの人たちも頑張れると思う。

(2) 第2次上田市子ども・子育て支援事業計画の策定について

- ・事務局から事前資料2・3・4説明
- ・質疑・御意見

(委員)

放課後児童対策 部会会議概要の1部会検討事項について、「放課後児童クラブの利用の人数が増えている状況に各施設に適切に対応して欲しい」この「各施設」でという表現が色々な解釈できてしまうが、どういった意味で「各施設で」という風に表現されているか説明してほしい。

(事務局)

放課後児童クラブと学童保育所の2つの施設の両方を合わせての放課後児童クラブということになりますが、そちらの施設について検討していくということでの表現。

(委員)

受託者の方が適切に対応するのか、施設面の狭さを上田市として適切に対応していく予定があるのかという部分はどうか。

(事務局)

受け入れの人数が増えてしまっていることについては市で別の場所等を探す必要がでてくるかと思う。

(委員)

里親制度について、上田市にも乳児院などあるが、市としては支援とか情報提供はやっているか。

(事務局)

上田市に乳児院があるので敬老園が県から委託で里親の養成あるいは支援を行っている。当然上田市としても里親を増やすという趣旨には賛同するので、チラシの配布や自治会への配布でといったところで依頼があれば里親が地域で増えるよう一緒に協力して行っている状況。ただ県の事業のため、市の方が施策として展開するという事は現状としてはない。

- ・名豊から当日資料 1-1・2 説明
- ・質疑・御意見

(委員)

調査会社の方にお願いで、実績と見込み量の単位が違っているというのが大分ある。

延べ人数になっているところ、日人になっているところ、工夫していただいて比較できるようにしていただけるとありがたい。

(3) 幼児教育・保育の無償化に伴う副食費の施設による徴収に係る補足給付事業について
事務局から当日資料 2 について説明

(4) その他

意見提出用紙について事務局から依頼

4 事務連絡

次回日程内容確認

5 閉会

